

令和8年度かりや夢ファンド補助金 審査結果
まちづくり活動支援事業補助金（申請額5万円以下）

No.	団体名	事業名	事業目的	事業概要 （「いつ」「誰が」「どこで」「誰を対象に」「何をするか」「どんな方法や工夫を用いるのか」）	得点	採択 結果
1	ママリンク	ママのひとやすみ	子育て中の母親が孤立しやすい状況に対し、安心して過ごせる居場所をつくることで、心身の負担軽減と地域のつながりづくりを図る。また、参加者同士が支え合う関係性を育み、子育てを個人で抱え込まない環境づくりを目指す。	【いつ】毎月1～2回程度【誰が】ママリンクの運営メンバー・地域ボランティア【どこで】市内公共施設【誰を対象に】未就学児を育てる母親【何をするか】母親が子どもと一時的に離れ、安心して過ごせる時間を提供する。母親は横になれるスペースで自分の時間を過ごし、子どもはボランティアスタッフが見守る。休息後はお茶を飲みながら交流し、保育士や助産師が会話や気分転換のサポートを行う。その後子どもと合流し、希望者は一緒にランチをとり、安心感を持って日常に戻れるよう配慮する。【方法・工夫】多世代のボランティアスタッフによる見守り体制を整え、安心して子どもを預けられる環境をつくる。参加者同士が自然に関われるよう、無理のない声かけや場づくりを行う。	19.57	採択
2	SUN・GO	SUN・GOで働く自分を想像しよう	必ずしも「働くこと＝自立」ではないが、働くことは目標のひとつである。障がいの有無に関わらず発達に特性のある子ども達が卒業後社会に出たときのギャップが少しでも和らぐことを目的としている。	小垣江町の青果市場で行われているあきんどマルシェの、子どもの居場所ブース（kodoikku）で毎月発達に特性のある中高生にアルバイト体験をさせる。アルバイトではない中高生や小学生にも居場所の提供を行う。アルバイトはワークショップ（工作や駄菓子提供）でのお客様へのあいさつ、金銭の受け渡し、作り方の説明、店頭の整理を2時間行う。日頃から福祉に従事している団体メンバーが、対象の中高生に対する支援者としてサポートする。終了後に支援者と振り返りをしてアルバイト代（交通費1000円）を受け取る。参加者は相談支援事業所や学校に子どもの将来についての相談をされた保護者さんに声をかけて、募集する。また、「お客さん」として居場所に参加する子ども達には、今後のアルバイト体験の対象者になるような声かけもする。	19.14	採択
3	青少年子ども家庭教育成協会	今を遊ぼう、将来を知ろう kodoikku	障がいの有無に関わらず、地域の子も達が大人になったときに地域で自分らしく自立して暮らしていけるよう、子どもとその保護者を支える。	市民ボランティア活動センターにて分科会やB型就労支援の見学会、洲原ロッジにて宿泊体験会・防災体験会を行う。集団活動を楽しみながらキャンプファイヤーや避難食の体験、非常時の安全を学ぶナイトウォークも行う（詳細は別紙（年間予定）参照）。当団体メンバーの他、活動の内容によってボランティアや中高生のアルバイト（SUN・GO）がスタッフとして運営する。主な対象は障害児とその家族で、教育委員会等を通じて特別支援教育対象児、相談支援事業所等を通じて福祉施設利用児（就園児～中学生）に案内を個別配布するが、障害児に限定はしない。また、事前予約が必要な活動と、予約なしで誰でも参加できる活動があるため、周知しやすくなるよう団体名と会のキャラクターをデザインした「のぼり」を作成予定。	19.86	採択
4	おがきえっこクラブ	地域で遊び地域で育つ「おがきえっこクラブ」	地域の子も達が地域の大人に見守られながら遊ぶ場の提供を目的とする。「子ども」とは全ての子どもを指し、地域外の子も受け入れる。年齢・障がいの有無で参加の制限は設けない。	●おがきえっこクラブ・駄菓子のこっこ屋 奇数月最終日曜日に小垣江町神明神社で行われる「ご縁市」にて、子ども向けの工作や綿菓子作りを無償提供する。 ●おがきえっこクラブ番外編 児童クラブが無く、習い事も入っていない祝日に、小垣江市民館を貸し切り、地域の子も達が「やりたいこと」を「一緒にやりたい子」と「好きな時間」を楽しむ。活動は以下3種類。①用意された食材を使って自分の作りたいメニューを調理室で料理する。リンゴの皮むきや缶切りを使って缶詰を開ける。②選べる工作③自由遊び（持参のゲーム等） 団体メンバーは安全確認とサポートが必要な子への配慮をする。地域の子育て支援団体や老人会で活動する方々がアシストしてくれることもある。作り方の指導は最小限にとどめ、子ども同士で試行錯誤を促し、解決するような声かけを心がける。全て無料、予約不要。案内チラシは小垣江町にある小垣江小学校・小垣江東小学校・刈谷市特別支援学校にて全校児童に配布。	18.71	採択
5	交差点部	交差点部×soleits 刈谷の活動をつなぐプロジェクト	市内には多様な市民活動やコミュニティが存在している一方で、それぞれの活動情報が分散しており、「どこで・誰が・どんな活動をしているのか」が見えづらく、市民が地域活動へ参加するきっかけを持ちにくい状況にある。本事業では、地域活動をつなぐ交流の場「交差点部」と、情報を可視化するデジタル掲示板「soleits」を組み合わせることで、「知る・参加する・つながる」、人・事・まちづくりが循環するコミュニティ形成を目的とする。	運営メンバーが主体となり、市民活動団体や地域プレイヤーと協働しながら実施。 【どこで】KariCoCo、スペースアクア【対象】市民、地域活動に関心がある方、学生・若い世代、地域との接点を持ちたい方、コミュニティ運営者や市民活動団体【何をするか】①活動情報を掲載できるデジタル掲示板「soleits」の運営②月に1回、交流コミュニティ「交差点部」の開催③情報のカテゴリー整理・可視化④活動のPR機会づくり【方法・工夫】交差点部：活動をWebアプリに一覧で掲載する。参加者の活動をジャンルごとに整理し、市民が自分に合った活動を見つけやすくする。また、参加者同士がお互いにプロフィールを共有することで、継続的な関係を持ちやすくする。「聞くだけ参加歓迎」「出入り自由」とし、参加ハードルを下げる。 soleits：「それいつ？」を合言葉にした活動紹介・PRをする。	18.57	採択